

令和元年度 事業報告書

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5丁目14-16

I 公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

① 蔵書収集

書籍 132 点を購入。このほか個人及び団体からの 15 点の寄贈を受け付けた。

② 閲覧・貸出し

開館日時・日数、ならびに利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

<開館日時・日数>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第3水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

開館日数 226 日

<利用状況>

利用者数 1,164 人、新規利用登録者数 171 人、貸出し冊数 279 点

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

文化講座「第 28 回アジア・アフリカを知る集い」について、令和 2 年 3 月 1 日に「NGO アフリカ理解プロジェクト」の代表・白鳥くるみ氏をお招きし、『人類生誕の地 アフリカの食と料理 ～料理本の出版で学んだアフリカの智慧～』と題して講演会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスによる感染症が広がりつつある状況を鑑み開催を中止し、新年度以降に延期して開催することとした。

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人及び個人からの依頼を受けて年間 27 件の翻訳案件を処理した。

(4) 三鷹市立図書館との協働事業関連

「三鷹市立南部図書館みんなみ」（当法人三鷹本部社屋 1 階。以下「南部図書館」という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

① 南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対して、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した（前年度から継続実施）。

② 南部図書館の開館記念日行事「みんなみフェスタ」が令和元年 11 月 23 日に開催された。概要は以下の通り。

<午前の部>

プラスチックの板を熱して作るプラバン工作「アジアのことばでストラップをつくろう」を開催。専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が参加した。

開催場所：三鷹市立南部図書館みんなみ（三鷹本部社屋 1 階）

参加者数：子供 10 人、大人 8 人、計 18 人

<午後の部>

下記講演会の開催に協力した。

企画名：『絵本『西遊記』朗読とトーク・中国伝統楽器「揚琴」の演奏付き』

講演者：唐亜明（タン・ヤミン 編集者、絵本作家）

開催場所：アジア・アフリカ語学院教室（三鷹本部社屋 3 階）

参加者数：28 人

- ③ アジア・アフリカ図書館所蔵の図書を南部図書館で展示し、貸出希望の場合は南部図書館経由してアジア・アフリカ図書館で貸出手続きを行う取り組みを行った（前年度から継続実施）。

(5) その他

- ① アフリカの食文化に関する常設展示を企画、開催した。なお、開催期間について、当初は令和 2 年 3 月末までとしたが、連動企画であった「アジア・アフリカを知る集い」が延期となったことから、本常設展示も会期を延長することとした。

展覧会名：『“食” から見たアフリカの生活文化』

展示内容：「NGO アフリカ理解プロジェクト」の代表・白鳥くるみ氏監修のもと、アフリカの食文化について解説を行うパネル展示と、同氏所蔵のアフリカの食器類の実物を借用し展示を行う。

開催期間：令和元年 10 月 30 日～令和 2 年度（閉会時期未定）

開催場所：アジア・アフリカ図書館閲覧室（三鷹本部社屋 2 階）

- ② 当図書館の情報発信の媒体「アジア・アフリカ図書館だより」の復刊第 5 号を発刊した（令和元年 11 月）。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第 124 条に基づく専修学校専門課程の教育

留学生を対象とした日本語学科は 1 年・1.5 年・2 年の 3 コースを開講した（総定員 140 人）。また日本語教育学科（全日制 2 年、総定員 20 人）は第 3 期生を迎え入れ、2 学年を開講した。アジア系語学科では韓国語学科（全日制 1 年、総定員 20 人）を開講、第 2 期生を迎え入れ授業を行った。インド語学科については新規の入学者はなく、次年度開講に向けて継続的に募集活動を行った。令和元年度の各学科の開講実績は以下の通り。なお、新型コロナウイルスによる感染症が広がりつつある状況を鑑み令和元年度の卒業式は中止とした。

〈入学・在籍者数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生等は除く

日本語学科

平成 30 年 4 月	入学 進学 2 年コース (60 期)	在籍者数 15 人 (31 年 4 月時点)
平成 30 年 10 月	入学 進学 1.5 年コース (61 期)	在籍者数 31 人 (31 年 4 月時点)
平成 31 年 4 月	入学 進学 2 年コース (62 期)	入学者数 22 人 (うち編入 11 人)
平成 31 年 4 月	入学 進学 1 年コース (63 期)	入学者数 37 人 (うち再履修 1 人)
令和 元年 10 月	入学 進学 1.5 年コース (64 期)	入学者数 38 人 (うち編入 1 人)

日本語教育学科

平成 30 年 4 月	入学 (2 期)	在籍者数 6 人 (31 年 4 月時点)
平成 31 年 4 月	入学 (3 期)	入学者数 6 人

韓国語学科

平成 31 年 4 月	入学 (2 期)	入学者数 3 人
-------------	----------	----------

〈卒業生数〉 ※ 人数は本科生のみ。科目等履修生等は除く

令和元年度 86 人（日本語学科 79 人、日本語教育学科 4 人、韓国語学科 3 人）

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座を実施した。また、前年度に引き続き日本語の夏季短期語学留学クラスを企画し実施した。三鷹ネットワーク大学においては、語学の体験講座の他、教養講座も実施した。おもな開講講座及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 ※ 受講人数は延人数

中国語入門～初級 21 人

《特別講座》 ※ 受講人数は延人数

アラビア語語学講座各種（一般会話、構文演習、エジプト・アラビア語会話、講読、文法復習など）、アラビア書道、中国語上級、韓国語中級、韓国語上級、ロシア語上級、ヒンディー語入門～初級 計 183 人

《プライベートレッスン》

インドネシア語 8 件

《三鷹ネットワーク大学における講座》

【語学講座】

春季体験講座・中国語他 全7言語 計50人(平成31年4月)
秋季体験講座・ヒンディー語他 全8言語 計59人(令和元年9月)

(イ) 法人・自治体・国の機関を対象とした教育

法人や各種団体の語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語や日本語の語学研修を下記の通り行った。

《語学研修》

日本語1件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

三鷹市内在住の外国人子弟を対象とした「日本語教育支援プログラム」について、近年応募者が少なく実施を見送ることが続いたため、前年同様、令和元年度も募集を行わず、三鷹市教育委員会などから情報を収集するなどの活動を行った。

(2) 学生寄宿舎の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」(ゆうほうかん、全20室・基本入居可能人数23人)と「青雲公寓」(せいいうんこうぐう、全4室・基本入居可能人数8人)を使用し、運営した。令和元年度の年間稼働率は、有朋館は98.6%、青雲公寓は100%だった。このほか、近隣の民間賃貸物件51室も寄宿舎として利用した。

(3) その他

ア 市内の小学生や高校生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校の生徒と日本語学科留学生が交流する活動を行った(令和元年11月)。

イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。専門学校アジア・アフリカ語学院のテントショップや各種イベントの運営に携わった(令和元年9月)。また、同留学生らは、自治会などが主催する地域の夏祭りなど地域の行事にも参加した。

ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

日本語教育関連プログラムを履修している大学生に対して、現場実習の一環として、日本語学科の授業を公開した(近隣私立大学1校、令和元年12月)。

3 国際交流事業（人材交流活動）

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

令和元年度は実績なし。

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施 ならびにこれに係る職業紹介

ミャンマー・ヤンゴンの日本語教育機関に勤務するミャンマー人職員（日本留学担当者）を対象に、専門学校アジア・アフリカ語学院での短期日本語研修及び教職員交流などの教育プログラムを企画し実施した。

＜研修者＞ ミャンマー人日本留学担当職員 1 名 (YA YA YA Japanese Language Academy & Education Centre 勤務)

＜研修期間＞ 平成 31 年 4 月 12 日から令和元年 7 月 5 日

＜研修内容＞ 日本語、日本留学事情、等

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

- ① 本部と文京支所（東京都文京区西片）が連携して業務を遂行した。受入れ実習生の講習場所はおもに茨城県美浦村の研修センターを利用、一部の受入れ実習生について本部施設を利用した。
- ② 平成 29 年 11 月 1 日に施行された「新技能実習法（外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律）」に則り、新制度における監理事業を行った。
- ③ 令和 2 年 3 月末時点における本業務の概況は以下の通り。
受入れ技能実習生数：687 人（1 号 232 人、2 号 416 人、3 号 39 人）
実習実施機関数：8 社 16 機関
提携送出し機関数：8 機関（中国 6、ベトナム 2）

(2) 日本語教育普及活動

ミャンマー支所「SHAN JAPANESE CENTER（シャン・ジャパニーズ・センター。ミャンマー連邦共和国シャン州タウンジー所在。平成 30 年 1 月開設）」を拠点に日本語普及活動や日本留学の情報提供、日本文化の発信などに取り組んできたが、令和元年 9 月末をもって当地での活動を終え支所を閉鎖した。

閉所までの 6 か月間の活動は、まず同センターにおける日本語学習機会の提供は年度途中での閉所が予定されていたことから新規の日本語学習者の受入れは行わず、前年度からの継続者のみを対象に日本語教育を行った。7 月に実施された日本語能力試験では N 4 に 7 人、N 5 に 6 人と受験者全員が合格した。同センターでの日本語学習者数は開所から令和元年 9 月までの累計で 327 人となり、日本語能力試験合格者数は累計で N 4 合格者が 12 人、N 5 合格者が 27 人となった。また、ヤンゴンの TIME STUDY 社がミャンマー国内で発行する新たな日本語学習テキスト『HIRAGANA』（6,000 部発行）の執筆に協力した。

Ⅱ その他の法人業務の状況

1 会員

令和2年3月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	10名	
特別会員（法人、団体）	1社	
賛助会員※（法人、団体）	8社	※ 技能実習生受入れ企業が対象

2 その他

役員並びに評議員の改選

令和元年6月22日開催の第11回評議員会において、任期となった理事及び監事の改選並びに評議員の改選を行った。

理 事	再任 8 名	退任 1 名	(令和元年度末の理事現在数 8 名)
監 事	再任 2 名		(令和元年度末の監事現在数 2 名)
評議員	再任 10 名	新任 2 名	退任 2 名 (令和元年度末の評議員現在数 12 名)

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

令和元年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上